

自己評価表（結果）

| | | | | | |
|------|----------------|----|-----|-----|-------|
| 学校番号 | 36 静岡県立清水東高等学校 | 課程 | 全日制 | 記載者 | 鈴木 幸平 |
|------|----------------|----|-----|-----|-------|

| 今年度の重点目標（学校経営目標） | | 評価 | 成果と課題 | 次年度の取組 |
|------------------|---|----|--|---|
| ア | 十分な家庭学習時間を確保させるとともに、授業改善を図る。 | B | 指導主事の要請訪問、シラバスの更新、授業参観等を行い、授業改善に努めた。生徒の家庭学習時間は伸び悩み状態である。 | 家庭学習時間については、メリハリのある生活や下校時間の厳守等で確保に努める。また、3年間を見通したシラバスの一層の改善・浸透に努める。 |
| イ | 3年間を見通した計画のもと、第一志望校の合格率の向上を目指す。（国公立大学合格者50%以上） | A | 大学センター試験結果等からは、生徒の成績は昨年度より伸びている。進路ニュースは充実したものになっている。 | 生徒・保護者の進路希望を達成するために一層の努力をする。 |
| ウ | 全国大会出場、県大会上位入賞などを目指すとともに、生徒の自主性を育てる。（全国大会6部活以上、県大会10部活以上） | A | 新人戦では17以上の部活で県大会に出場。4つの部活動で東海大会以上の大会に出場した。 | 学習と部活動の両立を目指して、目標が達成できるように努力する。 |
| エ | スーパーサイエンスハイスクール(S S H事業)や語学関係のコンクール等において、全国大会上位入賞を目指す。（全国大会3部門以上） | A | S S H関係では、4つの部門で全国大会に出場した。 | S S H関係では、引き続き全国大会を多くの部門で目指すとともに、英語関係でも努力する。 |
| オ | 学ぶ意欲を高める環境整備の一層の推進を図る。 | A | 西廊下、旧体育館の改修、エアコンの交換等を行った。 | 来年度は普通教室の内装の改修を行う。 |
| カ | 公開授業、ホームページ(H P)等を通して、広報の充実を図る。 | B | 公開授業は例年通りにできたが、H Pの更新については、昨年度より更新の回数が減った。 | 公開授業については、中学生の立場に立った日程に変更する。H Pについては、組織的に更新できる体制を構築する。 |
| キ | 生徒と向き合う時間の確保、ワーク・ライフ・バランスの観点から、教職員の教育環境を整える。 | B | 情報の共有化は図れたが、一方で1人1台パソコンに慣れる時間が必要であった。 | 1人1台パソコンを有効に活用できるようにする。 |

〔共通〕

| 領域 | ねらい | 評価項目 | 項目番号 | 達成目標 | 当該重点目標記号 | 評価 | 成果と課題 | 次年度の取組 |
|------|--------------------------------|---|--------------------|---|----------|---|---|---|
| 学校経営 | 適切な教育目標の設定 | 生徒・学校・地域社会の実態に即した教育目標を設定する。 | 1 | 刷新した「学校経営計画書」の内容を具体的に実践する。 | ア～キ | A | 学校経営計画に沿って、実施した、成果を上げた。 | 計画書・戦術・戦略・具体策等を一層充実させる。 |
| | 開かれた学校づくりの推進 | 教育活動の内容等について保護者や地域等への情報発信に努める。 | 2 | H Pの一層の充実を図るとともに、各種パンフレット等の整理を図る。 | カ | B | H Pの更新は、昨年度に比べて減少した。 | 更新掲載基準を明確にして、組織的に行う。 |
| | | 学校が有する教育機能や施設等の開放を通して、生涯学習センターとしての機能の充実を図るとともに、地域の人材の活用を図る。 | 3 | 体育施設等の教育施設を積極的に解放するとともに、地域の人材を総合学習等で積極的に活用する。 | | A | 柔道場、テニスコート等を定期的に開放した。また、卒業生を含めて、地域の人材を活用できた。 | 学校資源を地域に提供するとともに、地域の人材を積極的に活用する。 |
| | 事務の適切な執行 | 表簿等の管理を厳正に行うとともに、事務の効率化、セキュリティの徹底を図る。 | 4 | 電子データの整理により、効率的運用を図るとともに、セキュリティ管理体制を一層強化する。また、情報の一元化を図る。 | オ、キ | B | セキュリティ管理体制は強化できた。1人1台パソコンを導入したばかりで、情報化の一元化は今後の課題である。 | セキュリティ管理体制を一層強化するとともに、1人1台パソコンを有効に活用する。 |
| | 組織的・機能的な学校運営 | 各分掌間の連携を図り、教職員の共通理解に基づいた教育活動を行う。 | 5 | 運営委員会の活性化を図るとともに、「一人一改革」を実践し、業務量を一層スリム化する。 | キ | B | 運営委員会は月1回開催でき、情報交換が図れた。「一人一改革」を推進する中で事業の廃止は困難な状況であった。 | 業務の統合化、統一化を図り、業務量の一層のスリム化を図る。 |
| 教育課程 | 生徒の実態等を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施 | 教育目標、重点目標及び生徒の実態等を踏まえた教育課程を編成・実施するとともに、点検・改善に努める。 | 6 | 本校生徒の実態に合わせた教科・科目のあり方を検討する。（特に、新学習指導要領の考え方に即した本校独自の教育課程を作成する） | オ | A | 新教育課程への移行検討時期となっており、移行措置の教育課程を作成した。また、次年度から60分授業に授業時間を変更する。必要な時間数（駒数）の確保ができたと思われるが、時間不足の危惧も有する。 | 平成24年度乙の教育課程の作成に移行する。新教育課程への対応は慎重に考えるべきであるが、ユニークなアイデアも必要である。N E Sの成績処理システムを本校でどう導入するかを検討する。 |
| 教科指導 | 基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実 | 授業改善の推進を図る。 | 7 | 研究授業等の指導案の共有化をはかり、シラバスの積極的な利用を促す。 | イ | B | 授業案（指導案）コンテンツを共有化するまでにはなかなか至っていない。研究授業も少なかった。 | 研修課と強力な連携を図り、共有フォルダーの有効利用を訴えたい。S S H基礎講座の検討を考える。 |
| | | 個に応じたきめ細かな指導を行う。 | 8 | 習熟度編成について、その可否・評価を検討する。課題の出し方について教科間の調整のあり方も検討する。 | イ | B | 習熟度編成についてより効果的にするために、もう少し踏み込んだアンケート等の実施をしたかった。習熟度編成は時間割編成が難しくなっており、簡単にはクラス数を増やすことは難しい。 | 個に応じたきめ細かな指導についての方策を習熟度編成以外に求める。 |
| | 自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質能力の育成 | 授業形態や教材の工夫・改善を図る。 | 9 | シラバスを基にした自学自習や学習計画を立てることができる授業のあり方の検討をする。視覚的に授業ができるような環境の充実を図る。 | ア | B | シラバスを基にした授業展開はできた。視覚的な授業が展開できる環境作りは十分とはいえない。 | 教務部と研修部とタイアップして視聴覚機器を利用した授業の講習などを企画する。UstreamなどのStream系の情報公開や校内研修での利用をもっと積極的に図る。プロジェクターの充実や、プレゼンテーションソフトの講習などを行う。 |
| | 子どもの『こころざし』をはぐくみ、支える教育を推進する。 | 「授業がわかる」と答える生徒の割合を増やす。 | 7 | 「授業がわかる」と答える生徒の割合を80%以上にする。 | イ | B | 「授業がわかる」と答えた生徒の割合は74%であった。 | 授業の指導方法について更に一層の研究をするとともに、生徒による授業評価も継続する。 |
| | | 家庭学習の充実をはかる。 | 8 | 「週5日以上家庭学習に取り組む」生徒の割合を80%以上にする。 | イ | B | 「週5日以上家庭学習に取り組む」と答えた生徒の割合は75%であった。 | 週末課題などについて課題提出方法を工夫するとともに、家庭学習時間の実態調査も今後継続していく。 |
| | N P Oや企業との連携による授業を実施する。 | なし | 大学や民間の研究機関との連携を図る。 | イ | A | 東大訪問・名大訪問・横国大訪問や県立がんセンター訪問などについて、その目的を充分達成することができた。 | 今後も、大学訪問や民間の研究機関訪問等を継続するとともに、情報交換も適宜実施する。 | |

| 領域 | ねらい | 評価項目 | 項目番号 | 達成目標 | 当該重点目標記号 | 評価 | 成果と課題 | 次年度の取組 |
|-----------|---------------------------------|--|------|--|----------|----|--|---|
| 総合的な学習の時間 | 自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成 | 指導体制を整備し、計画的に推進する。 | 10 | 進路に関する時間というテーマに沿った企画を考え、各テーマに主体的に取り組ませることを検討する。読書週間など図書関係の事業を新設する。 | イ | B | 進路のテーマについても定着してきており、年によって時間数の増減はあるが、一定の行事として定着している。自主性の育成を図るまでには至らなかった。読書週間など図書関係の事業は機能してきている。 | 課題の提示や方法など各教科で共通するものを探していく。指導体制は、学校一律と言うよりも各教科での取組の向上を図るとともに、生徒へのアンケートにこの点での質問項目を入れる。 |
| | | 教科との関連付けに留意し、体験的な活動等による学習の充実を図る。 | 11 | SSHや他教科との連携に幅広く取組、充実した総合学習を展開する。 | エ | B | SSHは理科の教員を中心に成果を上げているが、他教科との連携が課題である。 | 時間数の報告や内容の明示をするとともに、生徒自身の計画表も活用する。 |
| | | 目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う。 | 12 | 総合学習への各生徒の取組を画一的なものにならないようにする。一律の評価をなるべく避ける工夫を検討する。 | オ | C | 評価形式については、一律的であった。ポートフォリオ評価の導入ができなかった。 | 学習指導のあり方など、授業や学力向上の工夫を考えていきたい。評価については観点別評価でない評価の基準を考える時期に来ているかもしれない。理論的根拠が必要である。 |
| 特別活動 | 社会性及び自主的、実践的な態度の育成 | 教育目標を踏まえ、創意工夫を凝らしたホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の推進を図る。 | 13 | 生徒会執行部の活動の充実を図るとともに、委員会活動の活性化を図る。 | ウ | A | 生徒会執行部がとても意欲的に新しい事業の企画・運営に取り組むことができた。 | 生徒会を中心に、各委員会との連携を図り、充実した活動を行うとともに、新たな事業の企画を行う。 |
| | | 直接的な体験活動の充実を図る。 | 14 | 学校行事の中において、積極的に地域との交流を図る。 | オ | A | 学校祭において、地域との交流、PATとの交流、障害者との交流を積極的に進めることができ、成果をあげた。 | 学校単位の交流に止まることなく、部活動単位や個人で地域との交流をより密なものにしていく。 |
| 部活動 | 生徒の自主的・自発的な活動による学校生活の充実 | 指導方法等について工夫・改善を図る。 | 15 | 文武両道のもと、効率のいい部活動の運営を行う。また、全国大会・東海大会への出場を目指す。 | ウ | A | 運動部と文化的な活動において、全国レベルの大会で活躍することができた。また、女子運動部の活躍が目立ち、県大会への出場が増えた。 | 日課変更に伴い、日常的な放課後の時間の有効利用を推し進めていく。学習と部活動の両立を図るよう時間の使い方の指導を充実する。 |
| 生徒指導 | 基本的生活習慣の確立 | 欠席・遅刻等の減少を図るなど基本的生活習慣の確立に努める。 | 16 | 遅刻者数については、前年比10%減を目指す。 | オ | B | 不登校の生徒が若干増加傾向にあった。遅刻に対する生徒の意識が向上した。 | 今年度同様、登校指導の継続を図り、遅刻者の減少を目指す。 |
| | モラルの育成 | マナーや社会的規範意識の育成を図る。 | 17 | 制服の正しい着こなしを重点的に指導をする。 | オ | B | 朝やHRにおける指導・声かけにより女子の服装の改善がみられてきた。 | 女子の制服に合い服・正装という概念を採り入れ、式典等におけるベストの着用を徹底していく。 |
| | 安全教育の充実 | 生徒の防犯意識及び安全対応能力の向上を図る。 | 18 | 生徒の登校時の交通事故0を目指す。 | オ | B | 登下校における、大きな事故は起こらなかったものの不注意による事故が起きた。 | 登下校事故0を目指す。交通指導切符30%減を目指す。 |
| 進路指導 | 望ましい勤労観・職業観の育成 | 就業に関わる体験的活動や計画的・体系的なキャリア教育を推進する。 | 19 | 総合学習・LHRで、保護者による職業ガイダンス等の行事を充実させ、職業研究を行う。 | イ | A | 「保護者による職業紹介」の冊子及び保護者による職業ガイダンスを総合学習の時間に行った。 | 総合学習を中心に、保護者・社会人による職業ガイダンス等の行事を充実させ、職業研究を行う。 |
| | 主体的に進路を選択し、自己実現を図ることができる能力の育成 | 進路希望達成のための指導の充実を図る。 | 20 | 進学情報の提供や進路行事を積極的に進め、国公立大学の合格率50%以上を目指す。 | イ | A | 進路ニュースの内容の充実を図り、進学情報の提供を行った。 | 進学情報の提供や進路行事を積極的に進め、国公立大学合格率50%以上を目指す。 |
| 保健指導 | 心身の健康の保持・増進 | 病気予防や朝食摂取等の健康増進のための取組を推進する。 | 21 | 疾病予防のため自主的健康管理の徹底、朝食摂取率の向上を目指す。 | オ | B | 昨年より保健室利用者数は少なかったが、ケガが多かった。 | 自主的な健康管理の徹底、朝食摂取率向上、危機管理能力の向上を目指す。 |
| | | 薬物乱用・喫煙・飲酒等の身体的影響に関する指導の充実を図る。 | 22 | 薬学講座の他、喫煙、飲酒などに関する健康教育の充実を図る。 | オ | B | 警察と薬剤師からの専門的な講話を開いた。薬物に関する問題行動はゼロである。 | 生徒の実情に合わせた薬学講座を実施する。 |
| 図書館活用指導 | 読書指導の推進 | 朝読書等、読書指導の充実を図る。 | 23 | 生徒の読書と自発的学習を促す。図書委員会活動の活性化を図る。 | ア | B | 図書委員会は図書委員長を中心に新企画を導入するなど、活発な取組ができた。 | さらに読書の機会を増やすような仕掛けを考える。 |
| | 図書館活用の促進 | 図書館を活用した学習活動の充実を図る。 | 24 | 図書館貸し出し数の前年度比5%増を目指す。図書館利用授業を支援し、実施数を前年並みに維持する。 | オ | C | 朝読書の時間が日課からはずれたため、貸出数が大幅に減少した。学年毎の貸出数にばらつきがある。図書館利用授業は昨年並みであった。 | 貸出数を減少させないための取組を図る。 |
| 教職員の資質向上 | 教職員の資質能力の向上 | 教職員の人権意識の高揚と、教育公務員としての倫理観・使命感の向上を図る。 | 25 | 生徒との信頼関係を大切に。さらに、生徒を対象に企画する外部講師による講演会には、できるだけ職員も聴講するようにする。 | キ | A | 校内研修会や全校生徒対象の講演会で、携帯やネットによるいじめや被害等に関する研修を深め、教職員の人権意識高揚を図った。 | 校内研修会や講演会で研修した内容が、実生活における行動と結びつくよう、今後とも啓蒙活動を進めていく。 |
| | | 校内研修の充実を図る。 | 26 | アンケート等による外部の意見や授業評価の結果等を、職員にフィードバックしていく。 | キ | A | 授業評価で実施した職員アンケートの結果や、公開授業の参観者からの意見等を集計し、職員への活用を促した。「教育総合ネットワークシステム」を通じて情報管理に関する職員研修も実施した。 | 公開授業などを通じていただいた校外の方々からの意見や職員アンケートの意見などを集計し、全職員にフィードバックしていく。 |
| | | 各種研修への参加と研修成果の校内での活用を図る。 | 27 | 研修を役立てたと答える教員の割合を60%以上にする。 | キ | A | 研修を役立てたと答えた教員の割合は70%であった。 | 各種研修会への積極的な参加を勧めるとともに、研修の成果を活かせるよう工夫する。 |
| | 信頼に応える教育の推進 | 生徒の信頼に応える教職員をめざす。 | 25 | 「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合を70%以上にする。 | ア | A | 「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合は71%であった。 | 生徒による授業評価などから、得た意見を今後の授業内容に反映するように授業改善を進める。 |
| 教育相談 | 相談体制の充実 | 相談しやすい環境づくりを推進する。 | 28 | 広報活動を重視する。 | オ | B | 年度当初など機会を捉え、広報活動を行った。 | 予防的な方策の模索と広報の工夫を図る。 |
| | | 校内外における連携体制を整備する。 | 29 | 校内外の連携体制作りを推進する。 | オ | A | 県総合教育センターの教育相談室等の連携はある程度できた。 | スクールカウンセラーの定期的な来校を図るとともに、校内外の連携体制をより充実させる。 |
| 福利厚生 | 教職員の健康の保持・増進 | 教職員の心身の健康の保持・増進を支援する。 | 30 | 健康診断受診率100%、再検査、精密検査、要受診者の受診率100%を目指す。 | キ | B | 職員健康診断受診率は100%を達成した。 | 受診率の向上を図り、全職員の心身の健康を目指す。 |

| 領域 | ねらい | 評価項目 | 項目番号 | 達成目標 | 当該重点目標記号 | 評価 | 成果と課題 | 次年度の取組 |
|-------|---------------------|--|------|---|----------|----|---|---|
| 管危理機 | 危機管理に関する校内体制の整備 | 学校や地域の状況を踏まえた学校独自の危機管理マニュアルに基づく実践的な訓練により学校の危機対応能力の向上を図る。 | 31 | どのような状況にも対処できるよう訓練を考える。ライフラインの確保や備蓄に取り組む。 | オ | B | 本校の防災訓練については、生徒が自覚して取組、成果は上がっている。地域との連携に関してさらに検討すべきである。 | 緊急時の教職員の連絡体制を充実していく。生徒の突発的な事故における確かな対応体制を整える。 |
| 事務部運営 | 教育活動の支援 | 教務部との連携を図り、教育活動を支援する。 | 32 | 事務部で必要な必要な学年・分掌の情報を100%共有する。 | オ | B | 月間と当日予定をボードに表示、週間予定の紙配布により情報の共有化を図ることができた。 | 変更情報の共有化を図りながら、事務部で必要な学年・分掌の情報を100%共有する。 |
| | 親切・丁寧な対応の徹底 | 生徒及び来訪者等に対して親切・丁寧な対応を行う。 | 33 | 窓口業務や対応に関する苦情「ゼロ」を目指す。 | | A | 窓口業務や電話対応など親切・丁寧な対応ができた。 | 継続して、窓口業務や対応に関する苦情「ゼロ」を目指す。 |
| | 学校事務の効率化 | 常に創意・工夫した事務改善を図る。 | 34 | 一人一改善を目指す。 | オ | B | 日々の事務処理にパソコン処理を取り入れ、事務処理方法を見直すなど改善を進めることができた。 | 一人一改善の一層の推進を目指す。 |
| | 学校経営予算に基づく予算の編成及び執行 | 当該年度の重点的取組を推進するための予算編成を行うとともに、計画的に予算を執行する。 | 35 | 学校経営予算に基づく計画的・効率的な予算編成・執行を行う。 | オ | B | 計画的・効率的な予算執行ができた。 | より計画的・より効率的な予算編成・執行を行う。 |
| | 教育環境の整備 | 施設・設備の整備充実を図る。 | 36 | 毎日の校内巡視と週1回の校内点検を実施し、施設設備の整備を図る。 | オ | A | 施設設備の破損等には早期の対応ができた。施設関係大規模整備は徐々に進めている。 | 管理教室棟教室改修工事の円滑な執行を図る。 |

〔学科〕

| 領域 | ねらい | 評価項目 | 項目番号 | 達成目標 | 当該重点目標記号 | 評価 | 成果と課題 | 次年度の取組 |
|-----|------------------------------|---------------------------|------|-----------------------------------|----------|----|--|--|
| 理数科 | 事象を科学的、数学的に探究する態度及び創造的な能力の育成 | 事象を探究する過程を重視した授業の工夫改善を図る。 | 54 | 課題研究の早期開始と、研究分野や研究内容の充実を図る。 | 工 | B | 課題研究活動は2学期の初めから開始することができた。1月には中間発表会も実施できた。 | 研究内容の充実を図るとともに、研究発表の指導方法も研究していく。また、安全面の指導も徹底させる。 |
| | | 最先端の科学研究に触れる機会を設ける。 | 55 | 東大訪問、理化学研究所訪問など、大学や研究機関等との連携を進める。 | 工 | A | 東大訪問、理化学研究所訪問の他に、県大薬学部研修、静岡がんセンター見学も実施できた。 | 大学や各種研究機関との連携を今後も継続し、生徒が最先端の科学研究に触れる機会を充実させる。 |

〔教育課題〕

| 領域 | ねらい | 評価項目 | 項目番号 | 達成目標 | 当該重点目標記号 | 評価 | 成果と課題 | 次年度の取組 |
|--------|-------------------------|--|------|---|----------|----|---|--|
| 情報教育 | 情報化に対応できる能力の育成 | 情報活用能力の育成を図る。 | 62 | プレゼンテーションの重要性について全職員が認識できるように取り組む。生徒全員が表計算ソフトウェアを使いこなせるように指導する。 | キ | B | 生徒は情報の授業などをとおして表計算ソフトを扱えてきている。職員は時間的余裕がなく、積極的な研修ができなかった。 | プレゼンテーションや表計算ソフトの使用を授業に活かせる工夫などを紹介していく。ACCESSの使い方、OPEN OFFICE ORGの使い方など講習ができるよう工夫する。 |
| | | 情報モラルの育成を図る。 | 63 | 情報の授業のみでなく、あらゆる機会を通じて知的財産権への理解を深めさせることを主眼におく。 | キ | B | 知的財産権の理解を深めることは、授業では取り組めたが、昨年度のように講習を行うことができなかった | 教職員にも冊子を配布する。知的財産権のプレゼンテーションの経験を積む機会を作る。 |
| 国際理解教育 | 異文化理解の推進とコミュニケーション能力の育成 | 多様な文化、歴史等を学習する機会の充実を図る。 | 64 | 教材選択において、文化の多様性を題材としたものを選ぶ。 | ア | B | 長期休暇等を利用して、各学年で「異文化理解」を題材にした英語の副読本を読み、理解を深めた。 | 取組の仕方に変わりはないが、生徒の英語力アップのために、生徒個々の理解を評価するテスト作成を工夫する。 |
| | | 国際交流体験の機会を充実するとともに語学教育の充実を図る。 | 65 | 日本文化を扱った英語教材を使用する。発表・作文活動で、文化背景が異なる人が聞く・読むことを考慮させる。 | 工 | B | 海外研修旅行を通じて英語を使った体験をし、特に理数科はカリフォルニア州リンカーン校との国際交流で日本文化を紹介した。スピーチコンテストでの入賞がなかった。 | 海外研修旅行をさらに充実させるために、特に普通科で事前指導（英会話指導や異文化理解等）を、もう少し計画的に実施する。また、スピーチコンテスト等で上位入賞を目指す。 |
| 人権教育 | 確かな人権感覚の育成 | 教科・特別活動等において、計画的に人権教育を推進する。 | 66 | LHR活動の年間計画において、人権教育のテーマ設定の日を設け、外部講師による講演会を実施する。 | オ | B | LHRにおいて、全校生徒を対象とした人権に関する講演会を実施した。 | 人権に関する講演会を実施し、いじめ等の人権に関する意識を高めていく。 |
| 環境教育 | 自然を大切にす心と実践的な態度の育成 | 体験的な活動を通じた環境教育を推進する。 | 67 | 様々な学校教育活動を通して環境問題に対する意識を高め、それらを実践できるよう随時、啓蒙活動を行っていく。 | オ | B | 清掃時間を中心に少しずつ成果が表れており、意識も高まりつつある。 | 生徒がさらに自主的に活動できるよう、導方法を工夫していく。 |
| 福祉教育 | 他人を思いやる心など豊かな人間性の育成 | 高齢者や障害のある人などへの理解を深める体験活動を推進する。 | 68 | 計画的にボランティア活動を進める。また、本年度は社会福祉教育推進校として福祉教育の充実を図る。 | オ | A | 今まで行ってきたボランティア活動の継続ができた。新たに部活動ごとの活動もできた。 | 部活動単位の活動を継続させ、より多くの者が関わることができるよう環境を作る。 |
| 防災教育 | 防災意識及び防災対応能力の育成 | 大規模地震等に対する防災能力の向上を図るため、実践的な防災訓練を実施する。 | 69 | 防災意識を高め、訓練がマンネリ化しないように工夫する。 | | B | 4月の地区別集会で地区名簿確認を行い、9月には避難訓練を実施した。避難訓練時において、参集時間の短縮が図られた。 | 防災委員会を活性化させ、生徒の防災意識を高めていく。 |
| | | 高校生が地域防災の担い手としての役割を果たせるよう、地域と連携しながら防災体制の充実を図る。 | 70 | ハザードマップなどを利用して地域防災に対する意識を高めていく。 | | B | 12月の訓練は自主参加であったが、比較的成果があった。2年生は研修旅行直前であったが、6割程度の参加率であった。 | 地域との連携をより強化するために、年1回開催される地域防災連絡会において学校近隣地区の参加を呼び掛ける。 |